

「本部」反動暴力分子の本性暴露

10.22スト破りのマル生集団

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

密集せる反動に抗し、オニオニ波闘争へ

労働「本部」反動集団による、前代未聞の暴力的スト破壊策動を粉砕し、闘いとった10・22ストは、労働千葉の階級的正義性と戦闘的団結力を満天下にさし示した。こうした労働者労働組合としての責務をはたす当然な闘いに對し「10・21に参加するな」「10・22ストに反対しよう」「再建情報」六号・七号と、スト破りをあおりたてた「本部」反動暴力分子をいかなる意味においても許すことはできない。結局、彼らの運動はもはや戦闘的・階級的労働運動とは無縁なばかりか、右翼・鉄労以下の政府・公団・当局の尖兵になり下ったことを自己暴露したのだ。

10・22スト前の反動分子の「オルグ」実態

△その1 スト破りを自認▽

一〇月一五日、伊藤(「本部」青年部書記長)を先頭に二七名が成田支部に押しかけてくる。労働千葉組合員「増送阻止」といっているならば君たちは当然ジェット燃料用機関車搬入阻止を闘うべきだ」「本部」伊藤「機関車送り込みについては、労働条件がととのえば送り込むのはあたり前だ。阻止するのはお前らが勝手にやればいい」

△その2 暴力を前面におし出した第二マル生の尖兵▽

一五日以降スト破壊オルグが他支部にも押しかけてくるが、次々と破産し、「オルグ団」は凶暴化してきた。一〇月一七日山中以下六名が津田沼支部に革マル・スパイ島田防衛にくる。津田沼支部青年部員が昼休み時間中に10・21、22ストへ向けたピラ貼りを行っているのを見て、「本部」「勤務時間中にピラ貼るなんて問題だ」「労働千葉」「ふざけるな、当然の組合活動だ。しかも今は昼休みだ」「本部」「昼休みも拘束時間中だ。俺達は勤務が終わってから、組合活動をやるんだ」と、第二マル生推進の本音を吐く。労働千葉「お前たちは10・22スト断固反対と言っているがどういうことだ」「本部」「反対はしない。できるならやってみろ」労働千葉「それはお前たちの持って来たピラに書いてあることと違うじゃないか。断固反対と言わなければ帰ってから鈴木真一や神保に叱られるんじゃないのか」「本部」グッと詰まって沈黙の後、やにわに労働千葉組合員になぐりかかり「逃げる」の号令によって逃走する。

この日午後、または塩谷村上、伊藤、山崎らの反動暴力分子にひきいられた三九名が津田沼にきて、「昼休みにピラ貼りをやっていた。暴力があった」と当局にたれ込み、泣訴する。その後、「オルグ

団」全員が作業中の台検職場に乱入し、やにわにカメラを持ち出し、国労、労働千葉組合員の顔写真を無差別にとりはじめたのである。再三、再四にわたる彼らの職場破壊行為に怒りが爆発。ついに両組合員が、全員作業を中止し「オルグ団」に抗議、追及した結果、フィルムを抜き、退散。その後追い出された「オルグ団」は、成田支部へ押しかけて「22ストなんて労働者の利益にならない。中止せよ」と反動的言辞をまく。激怒した成田支部組合員の気迫にふるえ上り、ここでも「オルグ団」は、ほうほうの体で逃げかえる。

鮮明になつた闘う労働千葉とその敵対者の姿!

こうして「本部」反動集団のスト破壊に抗して闘いとった10・22ストは、誰が労働の戦闘的伝統を継承し発展させ、労働者の利益を守り、誰がその敵対者であるかを鮮明にした。実際「本部」反動集団はこの間、労働組合らしい路線・運動的提起は何ひとつやらず闘いを放棄し当局に完全に屈服しているのが実態である。そして唯一労働千葉破壊にのみ組合員をひきまわしているのだ。「本部」反動集団よ、10・22ストにケチツケをする前に自らがジェット燃料増送阻止というならば、他局から千葉へと送り込まれようとしているジェット燃料用機関車三両の搬送を労働「本部」の責任において、キツパリと阻止したらどうなのだ。それとも「貨物安定宣言」路線をもって当局に協力しなければならぬとでもいうのか。もはや、「本部」反動集団は労働の名を語る資格はない。

更に第二波、第三波へ!

労働の名を汚す「本部」反動暴力分子を一刻も早く労働運動から追放し、労働を真に闘う労働者の手に奪還しなければならぬ。10・22ストは、その突破口を築いたのである。あらゆる反動を許さず労農連帯の真価をかけ、二期工事粉砕・ジェット燃料増送阻止・国鉄三五万人体制攻撃粉砕へ向け、第二・第三波闘争へ決起しよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!